

平成 27 年度 事業報告書

(第 24 期)

自 平成 27 年 4 月 1 日

至 平成 28 年 3 月 31 日

(設立許可 平成 3 年 12 月 20 日)

公益財団法人 ホソカワ粉体工学振興財団
大阪府枚方市招提田近 1 丁目 9 番地

平成 27 年度 実施事業の概要

本年度は、平成 27 年 2 月の理事会ならびに同 3 月に開催された評議員会において決定された事業計画書に従い、以下の事業を実施した。

I. 一般助成事業（事業管理費を含む実施額 2,332 万円、予算額 2,658 万円）

本年度は、年度計画に従い助成事業の中の 4 つの助成等を実施した。実施に当たっては、平成 27 年 5 月に助成事業の募集を開始し、応募締切日 7 月 21 日までに提出された申請書類を基にして 8 月 18 日に選考委員会を開いて審査分担を決めて採点が行われた。その結果に基づき選考委員会の推薦案をまとめ、11 月 26 日の理事会にて受贈者が決定した。贈呈式は平成 28 年 3 月 22 日にホソカワミクロン本社にて開催され、31 名の受贈者を含め 61 名の出席があった。

1) KONA 賞の授与（賞金配分額 100 万円）

本年度は 5 件の推薦があり、その中から一般財団法人電力中央研究所首席研究員牧野尚夫氏に、「粉体工学を基礎とした炭素資源高度利用技術の研究開発」の業績に対して KONA 賞が授与された。

2) 研究助成（助成金配分額 1,670 万円）

本年度は昨年度より大幅増の 150 件（昨年度は 126 件）の応募があり、その中から 22 件（昨年度は 23 件）の研究に対して助成することが決定された。研究助成については、採択率が 20%程度以上になることを目指しているが、本年度は、昨年度実績程度の予算が組まれていたものの、全体の収入見込みが 400 万円程度減少する見込みとなった状況の下、採択件数はほぼ同じで、1 件当たりの金額を抑えて助成総額を抑えることになった。その結果、応募件数が増大したことにより、研究助成の採択率は 14.7%に留まった。

3) 研究者育成のための援助（援助金配分額 300 万円）

本年度は 30 件の応募があり、選考委員会での推薦を受けて理事会で 10 件の採択が決定された。本年度は、採択者の中に、海外留学生 1 名、ならびに日本人では博士課程に進学予定の薬学研究科 6 年生 1 名が含まれていた。

4) シンポジウム等の開催援助（援助金配分額 0 万円）

1 件の申請があったが、対象が限定的で関連が薄いと判断され、今回のシンポジウム等の開催援助は見送りとなった。

II. 特定事業（事業管理費を含む実施額 104 万円、予算額 0 万円）

平成 27 年度事業計画においては、当財団設立 25 周年記念の特定事業として、本年度から積立てを行い、平成 28 年度に第 2 回ホソカワ国際粉体工学シンポジウムを国内で開催し、海外からも講師を招聘して特別講演会を開催する予定であったが、諸状況の変化により、平成 28 年度は第 50 回粉体工学に関する講演討論会と共に特別記念講演会を開催し、平成 29 年度に第 2 回ホソカワ国際粉体工学シンポジウムを海外で開催することになった。

また、本年度は、当財団設立 25 周年記念の特定事業の一環として、粉体工学の分野における国際的な交流を図ると共に、当財団の粉体工学の振興に対する活動を真にグローバルなものにすることを目的に、The 6th Asian Particle Technology Symposium (APT 2015) からの緊急要請を受けて 100 万円の寄付を実施した。

なお、本特定事業については、平成 27 年度に 250 万円の積立てを行い、平成 28 年度は 150 万円、平成 29 年度も同程度の予算計上を見込んでいるが、これらは財団の財務状況に応じて実施の予定となっている。

III. 財団自主事業（実施額 1,085 万円、予算 1,361 万円）

1) 粉体工学に関する講演討論会の開催（実施額 360 万円）

第 49 回粉体工学に関する講演討論会のプログラムと講演要旨、申込書を添付した案内状を 6 月から配布すると共に、当財団ならびにホソカワミクロンのホームページに掲載して集客を図った。そして、同講演討論会を 9 月 7 日(月)に千里阪急ホテルにて、「時代と歩む粉体工学」をテーマとして開催した。定員 150 名に対して、合計 162 名の参加があった。本会の開催内容について、当財団のホームページに掲載(9/14)すると共に、KONA 誌 No. 33 (2016) に報告記事を掲載した。

なお、本講演討論会の企画は、粉体技術談話会（会長 高橋実 名古屋工業大学名誉教授）に委託して行われた。

2) 国際学術誌「KONA」の発行（実施額 725 万円）

本年度は、合計 25 件の論文（アジア 14 件、欧州 8 件、米国 3 件）を掲載した No. 33 (2016) を 1,000 部印刷し、平成 28 年 1 月 8 日付けで出版して、国内外の読者、大学、図書館等の関係者への発送を行うと共に、同日財団ホームページに出版の案内を行い、Web ジャーナルも掲載した。

平成 28 年 2 月 2 日にアジアブロック編集委員会を開催し、次号 No. 34(2017)の出版に向けて、26 本の推薦論文の提案があり、執筆可否の問合せを行った。なお、本誌は本年度末をもってオープンアクセスに移行した。

なお、各ブロックの編集委員会からの推薦により、今年度は Peukert、Pratsinis の 2 氏に KONA Distinguished Service Award が贈呈されることになった。

3) 年報の発行（実施額 50 万円、予算 56 万円）

年報は当財団の活動状況と財団の助成を受けた研究の成果等を公表するために発行される。年報 No. 22(2014)は、平成 26 年度の活動状況報告を中心としたもので、平成 24 年度研究助成成果報告 11 件と平成 25 年度研究者育成のための援助成果報告 9 件を掲載し、平成 27 年 5 月に発行した。なお、当財団の年報は平成 20 年以降、冊子での発行を取り止め、ホームページでの掲載のみとなっている。

以上